

# すくすく おっぱい通信

第12号

平成28年8月発行

5階西病棟

朝夕は幾分しのぎやすくなりましたが、皆様いかがお過ごしですか？

7月30・31日に新潟市において「第25回母乳育児シンポジウム」が開催されました。

当院からは産婦人科大槻部長と看護部から3名出席しました。会場には500人を超える産婦人科医師や小児科医師、保健師、助産師、看護師、理学療法士等たくさんのコメディカルが参加されていました。

「母乳育児支援のやさしさを考える」、「母乳育児支援のやさしさが社会を変えていく」をテーマとしたシンポジウムや、ワークショップ、ポスターセッション等で活発な意見交換がされており、地域全体での母乳育児支援の重要性を再認識することが出来ました。

今回参加された大槻部長からの声を紹介させていただきます。

2016年7月30日、31日の2日間、新潟市朱鷺メッセにて母乳育児シンポジウムが開催されました。梅雨明けの夏空で酷暑の中日本全国から多数の参加者が集まっていました。

今回の一番の話題は宮城県名取市の春ウイメンズクリニックが2016年赤ちゃんにやさしい病院(BFH)に認定されたことです。市立病院友の会の一員である安井友春先生(春ウイメンズクリニック院長)が挨拶された中で、先生が市立病院勤務時に当院がBFH認定を申請中であり、その際に行われた母乳育児に関する講演に感銘を受けBFHを意識し始めたことを話されていました。我々のBFHとしての活動が通院する妊婦、褥婦だけではなく周辺地域の医療にも影響を与え、また刺激を受けていることを感じました。

発表では熊本地震で被災した熊本市民病院や東日本大震災後の取り組みについて塩釜市坂総合病院からの報告もありました。その他口唇口蓋裂児やリウマチ合併女性の母乳育児支援など通常の対応のみでは困難な事例報告や大阪府や新潟県の地域行政の取り組みなど今後の母乳育児支援に参考となる発表が多くありました。

産婦人科部長 大槻 健郎

当院もBFH認定からの歩みをポスター展示しました！！



日本全国から多数の参加者が集まって大変学びの多い2日間でした。産婦人科部長を筆頭にこれからもスタッフ一丸となり、他職種とも連携を取りお母さんと赤ちゃんにやさしい支援を、地域も含めさらに取り組んでいきたいと思っております。